

第14回

放射線被ばくの健康影響

—医療被ばくから福島における甲状腺がん多発まで—

原発いのちみらいシリーズ講演会

2017年

11/19 [日]

午前 10:00～12:00

ホテル金沢

4階 エメラルド

金沢市堀川新町1-1

金沢駅東口(兼六園口)から徒歩1分

参加費
無料

託児
あり

11/15[水] (託児は11/10[金])までにお申し込みの上、ご参加ください。
申込方法は裏面参照。

主催 石川県保険医協会

〒920-0902 金沢市尾張町2丁目8番23号
太陽生命金沢ビル8階

電話:076-222-5373 FAX:076-231-5156

Eメール:ishikawa-hok@doc-net.or.jp



講師

崎山 比早子氏

<略歴>

医学博士 千葉大学医学部大学院卒
元マサチューセッツ工科大学研究員
元放射線医学総合研究所主任研究官
元国会事故調査委員会委員
高木学校・原子力教育を考える会のメンバー
3・11 甲状腺がん子ども基金 代表理事
専門はがんの細胞生物学

抄録

放射線被ばくの健康影響

—医療被ばくから福島における甲状腺がん多発まで—

講師：崎山比早子

日本は検査による被ばくが世界でもダントツに多く、そのために年間約 1 万人ががんになると計算されています。全世界の CT 装置の 1/3 が日本にあるので検査の回数が多くなるためです。CT 検査は通常の検査よりも 200～400 倍も被ばくします。放射線には安全量がなく、被ばくの危険性は線量に比例して増加し、蓄積しますので、必要の無い検査はできるだけ避けるよう、特に放射線感受性の高い小児には注意が必要です。

福島原発事故が起き福島県をはじめ東北から関東まで広く汚染されました。事故から 6 年以上が経ち、福島では事故時 18 才以下の子ども達に小児甲状腺がんが通常の数十倍多発しています。しかし、福島県民健康調査検討会ではこれを放射線の影響とは考えにくいと報告しています。チェルノブイリ事故から 30 年以上経った今もベラルーシ、ウクライナでは子どもの健康被害が続いています。

福島をはじめとする日本人の未来の健康を保つために今私たちは何をなすべきでしょうか。一緒に考えましょう。



参加申込書

FAX 076-231-5156

《申込方法》

■団体名 [_____]
↑ 団体名が特でない場合は記入不要

■申込者名 [_____]

■電話番号 [_____ - _____ - _____]

■申込人数 [_____ 人]

▼申込締切

参加申込み：11/15(水)

託児申込み：11/10(金)

▼FAXでの申込み

切り取らずにこのまま送信して下さい。

▼電話またはEメールでの申込み

左記の項目を保険医協会にお知らせください。

※ 参加証等はありません。定員に達し申し込みを受け付けできない場合等に限り、主催者よりご連絡します。

【託児(無料)】をご希望の方は、以下もご記入ください。

(1)保護者名 _____ (2)携帯番号 _____

(フリガナ) (_____)
(3)お子様名 _____ [男・女] → 年齢 _____ 才 _____ カ月

(フリガナ) (_____)
お子様名 _____ [男・女] → 年齢 _____ 才 _____ カ月

※おやつや飲み物はご自身でご準備ください(必要な場合、おむつや着替えなどもお持ちください)。



石川県保険医協会

☎ 076-222-5373

✉ ishikawa-hok@doc-net.or.jp